

完全保存版

いい歯科 インプラント 治療医を選ぶ！

完全独占インタビュー

現代歯科インプラント開発の父

ブローネマルク教授

「自然の摂理に逆らうな」

編集部が総力取材で全国から選ぶ！

日本の頼れるインプラント

治療の「名医」たち

史上初の
インプラント治療
徹底調査！

全国771
歯科医院
の実態

本誌
独占

初めてならば、しっかりわかってほしい！

インプラント治療の基礎知識7

米国の最新インプラント事情ルポルターージュ

25年先に行く

米国歯学部教育に学べ！

インプラント問題を追及した本誌だけが知る！

「東京・インプラント死亡事件」と

「豊橋・使い回し事件」の深層



本誌は収益の一部を日本の対がん活動のために寄付します

抗菌加工
本誌の表紙は、抗菌加工を施してあります。



インプラント歯科学を研鑽するスタディーグループ

UCLA

インプラント アソシエーション ジャパン

UCLAのジョン・ビューマー教授の起案によって発足した「UCLAインプラントアソシエーション ジャパン」。現在、同スタディーグループはインプラント治療を学ぶ人々に広く門戸を開き、ブローネマルク教授の培った基本概念を継承しつつ、高度な技術の研鑽に努めている。

ジョン・ビューマー教授とピーター・K・モイ教授が贈る
日本の歯科医療へのメッセージ

P118~P119

UCLAインプラントアソシエーションジャパンの目指す歯科医療

P120~P124

銀座UCデンタルインプラントセンター	東京都	P125	汐留デンタルクリニック	東京都	P134
アートインプラントセンターおおも歯科	茨城県	P126	タキザワ歯科クリニック	東京都	P135
i Cube Dental Clinic 新浦安	千葉県	P127	タカハシ歯科	東京都	P136
宇野沢デンタルクリニック	千葉県	P128	神谷デンタルオフィス	神奈川県	P137
オリオン歯科医院	千葉県	P129	清水歯科藤沢院	神奈川県	P138
ヒロ・ヤマダ デンタルオフィス 青山	東京都	P130	信州口腔外科インプラントセンター	長野県	P139
大崎シティデンタルクリニック	東京都	P131	山口歯科医院	京都府	P140
おざわ歯科医院	東京都	P132	OSCメディカルコンシェルジュ	福岡県	P141
駒込デンタルオフィス	東京都	P133			

ジョン・ビューマー教授とピーター・K・モイ教授が贈る

日本の歯科医療へのメッセージ

UCLA歯学部口腔顔面インプラントセンター（現インプラント歯科学の前身）は、米国において1980年代にいち早くブローネマルク・インプラントを臨床に取り入れ、インプラント臨床と研究を通じて米国でのリーダー的な存在となりました。1980年代後半までにインプラント治療は米国において一般的な治療として確立され、UCLA

歯学部では学生教育のカリキュラムにもインプラントを取り入れられていました。しかし、その当時の日本では未だインプラント治療がほとんど普及しておらず、インプラント治療を学びたい歯科医師への教育機会もありませんでした。私は、1987年に日本で最初のブローネマルク・インプラントの実習セミナーをモイ教授と共に東京で行い、日本の歯科医師が非常に熱心であったことを四半世紀経った今でも鮮明に覚えています。

我々は1980年代中頃より、UCLA歯学部において、米国内の歯科医師はもちろん、海外の歯科医師をも対象としたインプラントの教育プログラムを行っていました。そ

して、1980年代後半から、山田先生や菅井先生を始め、日本の先生方もUCLA歯学部在籍してインプラントの臨床と研究に携わるようになり、1990年代後半になると、日本でも次第にインプラント治療が普及し始め、多くの研修会や講演会が行われるようになり、私とMooy教授は毎年のように日本を訪れていました。日本へ講演に行く度に、UCLA歯学部で研鑽した先生方が集まってくれたので、彼らにUCLAでの最新の研究や臨床テクニックを継続的に学ぶスタ

ダイグループの発足を起案しました。こうしてUCLAインプラントアソシエーションジャパンが発足したのです。その後、UCLAインプラントアソシエーションジャパンの数多くのメンバー達が、UCLA歯学部においてインプラントの研修を受けています。

私は、UCLAインプラントアソシエーションジャパンの顧問として、メンバーの先生方にUCLAにおける最新の研究内容と医療技術を正しく学んでもらえるようサポートしています。インプラント治療は日進月歩で発展していますが、なかには現れては消えてしまう不完全な製品やテクニクも少なくありません。これを個人の開業医レベルで検証することは困難ですが、我々はUCLA歯学部において新しい治療技術を検証して良いものだけを教育・研修・臨床に取り入れていきます。そのような面からみても、UCLAインプラントアソシエーションジャパンのメンバーは、UCLA歯学部と同じ国際レベルでのスタンダードな治療法を行っているといえるでしょう。



Professor John Beumer III
ジョン・ビューマー教授

UCLA歯学部 有床義歯学前教授
UCLA歯学部 口腔顔面インプラントセンター元ディレクター
UCLA歯学部 顎顔面クリニック前ディレクター
国際口腔顔面リハビリテーション学会前会長
UCLAインプラントアソシエーションジャパン顧問

また日本では、最近、インプラント治療を行う先生方が急速に増え、それに伴ってインプラント治療のトラブルも増えていくと聞いています。インプラント治療のトラブルを防ぐためには、正しい知識と技術を身につけることが重要であることはいうまでもありません。

私は、日本の患者さん達が、正しい教育を受けたUCLAインプラントアソシエーションジャパンの先生方の治療を安心して受けていただけることと自負しています。

UCLA歯学部では、1980年代から長年に渡ってオッセオインテグレーションに関しての基礎研究と数多くの臨床研究を重ね、世界でも屈指のインプラント先進施設になりました。UCLAインプラントアソシエーションジャパンのメンバー

ブローネマルク教授は、1982年にトロントで開催された歯科学会において「オッセオインテグレーション(インプラントと骨が結合すること)」の現象を紹介しました。その学会において、同教授は、「オッセオインテグレートッド・インプラント(骨と結合するインプラント)の成功の鍵は、インプラントが骨と結合し、その結合が長期間維持されることであり、オッセオインテグレーションを長期間成功させるためにはチタン製インプラントと骨や歯肉などの生体組織との調和が重要であることを述べました。

UCLA歯学部では、1980年代から長年に渡ってオッセオインテグレーションに関しての基礎研究と数多くの臨床研究を重ね、世界でも屈指のインプラント先進施設になりました。UCLAインプラントアソシエーションジャパンのメンバー

も、UCLA歯学部において、これらのインプラントの基礎研究と臨床に加わっています。UCLA歯学部の卒業教育プログラムでは、1980年代後半以降、インプラント歯科学に重点をおき、私がビューマー教授と共に顧問を務めているUCLAインプラントアソシエーションジャパンは、UCLA歯学部における教育プログラムを受けた先生方で構成されています。UCLAインプラントアソシエーションジャパンのメンバーは、UCLA歯学部において、科学的なインプラント治療の最先端技術、材料学、外科学、補綴学などを学んでいます。従って、UCLAインプラントアソシエーションジャパンの先生方の治療を受ける患者さんは、適切なインプラント治療を受けることができるでしょう。なぜなら、UCLAインプラントアソシエーションジャパン



Professor Peter K. Moy ピーター・K・モイ教授

UCLA歯学部 インプラント歯科学教授
UCLA歯学部 口腔顎顔面外科学臨床教授
AO(アカデミー・オブ・オッセオインテグレーション)前会長
UCLAインプラントアソシエーションジャパン顧問

の先生方は、どうすれば最も良い治療成果を達成できるかを理解しているからです。

UCLAインプラントアソシエーションジャパンは、UCLA歯学部において臨床フェローやレジデントのポジションを得て実際の手術を行ってきた先生、プリセプターとして研修を積んだ先生、さらにはビューマー教授がUCLA歯学部に設立したワイントロップ研究センターにてインプラントの最新研究に貢献した先生らを中心として、メンバーの先生方はインプラントの生涯研修に打ち込んでいます。

私は、UCLAインプラント歯科学の教授の立場から、UCLAインプラントアソシエーションジャパンの先生方は、今後より高度な生涯研修を継続して、常に新しい知識と技術を磨き、患者さんのために寄与されることを奨励します。

歯科医師には、患者さんに提供できる最善の治療を行う義務と責任があります。これを完遂する唯一の方法

は、先生方が生涯研修を絶えることなく継続して努力することです。UCLA歯学部は、UCLAインプラントアソシエーションジャパンとの連携を密接にして支援し、日本におけるインプラント治療の正しい発展を祈念しています。



UCCLAインプラント・アトマン・シム・ヒーシヨンジヤパンの目指す歯科医療



菅井 現在、UCCLAにはインプラント歯科学という講座がありますが、その前身となるUCCLA口腔顔面インプラントセンターのディレクターをされていたのがビューマー教授とモイ教授でした。両先生は1980年、スウェーデンからアメリカに伝わったブローネマルクシステムインプラントをいち早く導入し、その教育に尽力されました。80年代後半までにはアメリカ全土でセミナーを開催し、1987年には東京においてもセミナーを開催されました。

UCCLAを訪れ、1998年、ビューマー教授の起案によりスタディーグループ「UCCLAインプラントアソシエーションジャパン」を発足しました。当初はUCCLAで学んだ歯科医師の集まりであったがグループは、その後、志を同じくする歯科技工士や学生にも門戸を広げ、オープンなスタディーグループとして活動を続けて参りました。

発足時より、UCCLAへの研修ツアー、国内における年次講演会、実習セミナーを定期的に行っております。研修ツアーではモイ教授のインプラントセンターにおける研修

として、ビューマー教授を中心とするUCCLA学内での研修を行っています。こうし



すがい としろう
菅井 敏郎 先生

医療法人UC会
銀座UCデンタルインプラントセンター 所長

開かれたスタディーグループの誕生

た勉強会、研究会、ライブオベ、症例研究会等を通じ、常に新しい方向性を捉えながら、最新の臨床や研究内容を継続的に学ぶところに当該グループの目的があります。

なお、来年度からの研修ツアーは、モイ先生のもとで3日間のセミナーを年2回開催し、これを2年間継続して行うという形になる予定です。私たち歯科医師には、信頼性の高い良質な治療を提供する役割があります。当グループの修練を通じて、日々進歩する医療技術を研鑽していくことが、今後ますます重要になるのではないのでしょうか。そこで、本日の座談会におきましては、当該グループの活動を見つめ直し、時代の変化の中で何を求めていくべきかを考えてみたいと思います。まず、発足時からのメンバーに、当該グループがどのような集まりであるのかを語っていただくとところから始



めましょう。
山田 私は現在、2つのグループに属しており、一方はクローズドなグループ、もう一方はオープンなグループです。それぞれに良い面があります。当グループは開かれたスタディーグループに変革しており、世界の情報、特にUCCLAの情報や会員の皆様にお伝えしています。症例検討会を介して、患者様の利益と信頼について常に議論の追求ができる場となっております。私がUCCLAに行った1989年頃とは異なり、日本にも多くの情報が入ってきました。しかし依然として、ビューマー教授、モイ教授の研究結果を踏まえ、ベーシックな内容を中心に日本で学べる当該グループの魅力にはありません。



石橋 基本的な部分の習得とともに、自分の技術が今どれぐらいの水準にあるのかを再認識できるところが良いと思います。菅井先生には公私ともどもお世話になり、今後滝澤先生らと共に縁の下で力持ちとして手助けしていきたいと思っています。

菅井 メンバーの皆さんが当該グループに何を期待して入会されたのかも聞きたいですね。

* * * * *



森方 以前から菅井先生にご指導いただき、先生の技術、考え方に感銘を受けておりました。当該グループでは、菅井先生の近くで学ぶことができ、アメリカの症例についても深く学べるところが良いと思えました。多くの情報が溢れるなか、何が正しい技術なのかを独力で判断するのは困難でしょう。当該グループではビューマー教授、モイ教授のいらつしやる恵まれた環境で、正しい知識、正しい考え方を身につけることができます。このことが、患者さんにより良い治療を提供することにつながるのだと思います。将来に向かって継続的に勉強していくことが大切だと思っています。

石橋 世界の情報をすべて自分自身で確認するには限界があります。当該グループにおいては金銭的、時間的な制約を受けることなく、菅井先生を筆頭に知識と経験豊富な方々に直接質問できます。グループに属していなかったら、おそらく雲の上の先生として、お声をかけるのをためらってしまうこともあったでしょう。当該グループには共に学ぶ良い関係が築かれているので、若手も遠慮することなく、最高の技術を近くで見聞きすることができるとは魅力ですね。



やまだ ひろみつ
山田 紘充 先生

ヒロ・ヤマダ デンタルオフィス 青山 院長

石橋 例えていうなら、いかに早く土壌を作り、その土壌に人の住めるマンションを作ってあげられるかだと思えます。CTを用いて、術前の状況把握に努め、また、術後のメンテナンスにも力を入れ

患者さんの利益のために出来ること



もりかた みつすけ
森方 光佑 先生

医療法人社団汐留会
汐留デンタルクリニック 院長



宇野澤 菅井先生がUCLAに行かれた後、私も2年



深川 私は菅井先生のオフィスで勤務させていただき、



滝澤 25歳のときに菅井先生のオフィスを見て、あまりの



櫻田 私はアメリカで行われている治療や情報を求めて当グループに参加いたしました。菅井先生からご指導いただき、最新の情報を得られるのが大きなメリットだと思います。

山田 私はインプラントの父

また、石橋先生のクリニックで当グループにおける裏方の仕事の大変さを見て、この会への参加を決めました。



小澤 海外に行かなくても、さまざまな情報が得られて、情報を交換できるのが当グループの特徴ですね。

菅井 先生方は当グループで研鑽を積まれた成果として、日々の診療においてどういった点を重視するようになりましたか。

謙虚でありたいと考えております。

他の先生に依頼して治療を進めることもあります。思い上がることなく、いつも

入念に行い、どういった治療になるのかを患者さんに認識していただけるように説明しております。上顎の奥歯にある上顎洞の骨が足りないときに行うサイナスリフトや、骨移植の難しい症例は

“For the patients”を大切に考えております。インプラント治療の前には検査・診断を入念に行い、どういった治療になるのかを患者さんに認識していただけるように説明しております。上顎の奥歯にある上顎洞の骨が足りないときに行うサイナスリフトや、骨移植の難しい症例は



いしはし よしのり
石橋 良則 先生

医療法人社団則真会
大崎シティデンタルクリニック 院長

めに、菅井先生にインプラントオペをお願いし、私は上部構造を担当しております。
櫻田 日本でもアメリカでもそうですが、現在、インプラントの学会と歯周病の学会における治療方針がほとんど同じになってきています。インプラント治療では歯を抜いたときにインプラントを埋入するわけですが、歯周病で、歯を失った場合にも、現在はインプラントの埋入が第一選択になっていきます。インプラントが入ることで、残っている歯も長期的に安定した状態で使っていただけれます。インプラントによって口腔を再構築するという考え方は、こうしたインプラント治療も含め、私は病院としてのチーム力を上げる努力をしております。



神谷 他の歯のためにインプラントを活用するという視点は重要だと思います。私は患者さんから、インプラ

最高級のインプラント治療のた



たかはし はるよし
高橋 治好 先生
タカハシ歯科 院長

術を行います。ただし、インプラント治療が一番ではなく、お口の中の状態が良くなって、長く維持できるということが一番重要だと思っています。患



高橋 CTを導入したことで審査・診断がより確実な

ものになり、患者さんに正しい知識を提供できるようにになりました。私のところには20〜60代でお仕事などに現役で取り組まれている方が多くいらっしゃいます。審美的な側面も含めて、インプラントと残存歯との調和を大切にしています。また、私はまだ20代の頃から通ってくれている患者さんについては、高齢の方でもいらつしやいますので、今後介護を受けられる可能性があるようななら、どういう治療法が良いのかについて丁寧に話し合うようにしております。



滝澤 私は、自身自身にインプラントを埋入するとし

たらどうだろうか、と常に考えています。患者さんのことを考え、派手な治療ではなく、確実性の高い治療を優先しています。万が一を想定して、機材も導入しています。



さくらだ まさひこ
櫻田 雅彦 先生
医療法人社団櫻雅会
オリオン歯科医院 院長

小澤 患者さんの利益のために、低侵襲で、短期機能回復が可能な、長期安定した予知性の高い治療を心がけております。サイナスリフトや骨移植を要する難症例にも対応しております。注意していることは、自分の得意な治療に偏ることなく、患者さんが何を求めているのかをよく分析し、患者さんの側に立った治療を行うということですね。



宇野澤 最も大切なのは信頼性の高さに配慮すること



深川 インプラント治療に限らず、来院される方の恐怖心を取り除いてあげたいと考えています。また、菅井先生のもとで5年間、勤務医として仕事をさせていただいた中で、術後のメンテナンスにも携わり、その重要性を痛感しました。オペ室とメンテナンスルームを分け、長期にわたって患者さんの幸福が得られるようにと考えております。



山本 まず信頼を作ることが大切だと思います。インプラント治療も含め、しっかりと説明をし、理解してもらってから治療に入ります。ライフスタイルに合わせて、どの方法が一番ふさわしいかを、患者さん自身に決めてもらっています。それが、結果的に一番患者さんの要望に沿う形になるはずだと考えているからです。



大友 患者さんが何を求めているのかを汲み取って、できる



うのざわ ひでき
宇野澤 秀樹 先生
宇野沢デンタルクリニック 院長



たきざわ としあき
滝澤 聡明 先生
医療法人社団 明敬会
タキザワ歯科クリニック 院長



やまもと まさひろ
山本 将弘 先生

駒込デンタルオフィス 院長

菅井 インプラント治療の普及をふまえて、当グループが担うべき役割はどうあるべきかについて、それぞれの立場からお話ください。



菅井 インプラント治療の普及をふまえて、当グループ

後にも重要な役割であることに変わりはないと思います。**鈴木** どのメーカーが良いのか、一つにしばってないのも良いところですね。正しい知識と判断力を得る場として、当会に参加することには大き



すずき たけお
鈴木 丈夫 先生

ヒロ・ヤマダ デンタルオフィス 青山 歯科医師

限り要望を聞き入れた上で、その人にできることでないことをしつかり伝えます。過度な期待があれば修正し、最終的には自分の家族にやってあげたい治療を患者さんにやってあげたいと思います。

ら時間が経ちましたが、私は根本的な部分に変化はないと考えております。新しい情報、最先端の技術が入ってきたときに、菅井先生の方から、そうした新しいものに対して間違いないように方向性が示されます。そういった積み重ねが当グループの強みであり、今

なメリットがあります。**大友** 日本の大学でもインプラント治療を教え始めていますが、定番といえる教科書はないようです。英語の論文にしても、すべてが正しいわけではありません。正しい情報や知識を個人の力で探すのは難しいでしょうね。

グループが果たすべき役割は大きい

春岡 インプラントへの信頼という話題が出ていますが、私はシステムの共有化が大切だと考えます。首都圏ではベーシックなコンセプトが感じられる反面、地域によっては、もともとアカデミックな会話だったものがいつのま



春岡 インプラントへの信頼という話題が出ています

もない、安易な取り組みも目に付くようになりました。当グループ内だけでなく、歯科全体のトラブルを最小限にして、悪い風評が生じないようにしなければならぬでしょう。そのためには、当グループの厳しい基準を伝えていくことが大切です。サインスリフトなど、菅井先生の得意分野については特にそうだと思います。



おおとも たかのぶ
大友 孝信 先生

アートインプラントセンターおおとも歯科 院長



神谷 50歳を過ぎると、クリニックの勤務医を教育す

る立場にもなり、もつと知識が必要であることを自覚しま

菅井 これまでの活動で良いところは継承していきたいと

にか変化してしまうということが生じます。治療におけるローカルルールが発生してしまっているのです。インプラント治療には主にスウェーデンルート、UCLAルートの2つのベーシックなルートがあります。その内の一つを普及させていくという意味で、今後も当グループの役割は大きいといえるでしょう。

山本 若手の歯科医師に、人生をかけて一つの仕事に打ち込んでもらいたいという思いがあります。留学する意欲のある人に当グループの存在を伝えて、掛け橋になることができればと考えています。



ふかがわ しゅう
深川 周 先生

Cube Dental Clinic 新浦安 所長



かみや しのぶ
神谷 忍 先生

神谷デンタルオフィス 理事長

うになりました。外国で学べる環境にない人も情報を得ることができません。以前は、情報の流れは一方通行で、日本の歯科医師は情報を得る側だったと思いますが、現在では、日本からもたくさんの方々が海外に出て活躍されています。情報を得るだけでなく、交換できるような環境に

なつてきていると感じます。北村 海外の技術が何でも良いわけではありません。東洋人の骨の特質は西洋人と異なるわけですが、菅井先生はそのあたりも考慮して治療されています。そして、ご自身の手の内をオープンにしているところが素晴らしいと思います。分野の異なる先生方が力を発揮し、最も大切なスタンダードな事柄について発信し続ければ、インプラント治療の恩恵を受ける人が増えることでしょう。菅井先生と



思います。一方で、別の角度からのご意見や提案をお持ちでしたらお話ください。

櫻田 アメリカからの情報を比較的容易に得られるよ



東洋人の骨の特質は西洋人と異なるわけですが、菅井先生はそのあたりも考慮して治療されています。そして、ご自身の手の内をオープンにしているところが素晴らしいと思います。分野の異なる先生方が力を発揮し、最も大切なスタンダードな事柄について発信し続ければ、インプラント治療の恩恵を受ける人が増えることでしょう。菅井先生と



おざわ としふみ
小澤 俊文 先生

おざわ歯科医院 院長

は、大学の空手道部で練習していたときからのお付き合いになります。私は口腔外科で36年、インプラント治療で9年のキャリアがあり、年齢は高いかも知れませんが、当グループ内では新人の気持ちで何でも吸収する意気込みであります。



菅井 春岡先生、北村先生には独自の取り組みがありました。



春岡 私は菅井先生の医院と同じビルにオフィスを開

き、そこを、診断とコンサルテーション、そして歯科技工士のネットワークに専念する場所にしたと考えております。菅井先生、山田先生をはじめ、当グループの先生方から勉強させていただき、マーケティングの観点を取り入れて、ビジネスモデルを提示できればと思います。

北村 信州の小布施で開院するにあたり、私が古都奈良の出身であることもあって、純和風の建物とを考えました。栗林の庭に地下水を流したせせらぎと池を作りました。

患者さんと医師の間の「深い川」を超え、互いに打ち解け、くつろぎと安らぎを感じて頂くという狙いがあります。治療面では、特にチーム医療に神経を尖らせており



はるおか たつお
春岡 龍男 先生

ワンデスマイルインプラントクリニック 主宰



きたむら ゆたか
北村 豊 先生

医療法人 信州口腔外科インプラントセンター 所長

「ヒヤリハット」の「ヒ」あたりで、多くのことが学べます。それらを、小さなことでもフィードバックして、インプラント治療の信頼を高めたいと思います。

私たちはブローネマルク教授が培った基本概念を忠実に守り、患者さんの生涯における口腔の変化、生活の変化までを考慮して、健康生活の向上を追求した治療を行うべきだと考えます。会員一同、大切な患者さんのために、基本を大事にしなが、新たな知識と技術を研鑽し続けていくことができればと願っております。

取材/斉藤雅幸

患者さんの心をつなぐ 信頼と安心の医療



季節によって色々な美しい蝶が庭園に飛来する

私達の診療所は平成16年に設立され、口腔外科疾患と歯科インプラント治療を担う診療所として、大学の卒業研修施設にも認定されております。

患者様と医師との間には越えにくい“深い川”が流れているといわれますが、その川が私達の診療所の庭にある地下水の“清らかな水の流れるせせらぎ”となり、くつろぎや、安心を感じて頂ける場となることを願ってスタッフ一同日々努力を重ねており、“世界の医療のスタンダード”をこれからも皆様に提供していくよう努力を続けていております。当センターが“皆様と共に創り上げていく新しい時代の歯科医療モデル”となり、そして地域の方々との様々な出会いや交流の場となることを願っています。



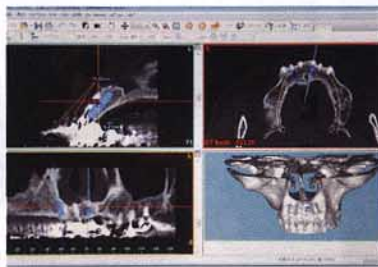
所長 北村 豊

きたむら・ゆたか ●1975年、神奈川歯科大学卒業、77年～80年、青年海外協力隊(JOCV)としてマレーシア国立先住民病院に赴任。

松本歯科大学第一口腔外科助教授、同大学口腔顎顔面外科臨床教授などを経て2004年、信州口腔外科インプラントセンター設立。英語、マレーシア語、インドネシア語にも堪能。日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医。神奈川歯科大学人体構造学講座 非常勤講師。松本歯科大学口腔顎顔面外科 非常勤講師。



和風建築の美、欄間を配した受付待合室には、季節の草花・風景画を飾り、患者様の緊張を少しでも和らげるように努めています



CT3D画像も使用し、患者様も参加していただいていた治療計画を立てています



古部奈良市出身の所長が患者様の安らぎを求めて栗林の中に建てた純和風の診療所は、小布施町の第1回「優良な景観建築物等」の認定を受けました。日本に昔からあるもてなしの心で皆様をむかえたいと願っています



庭に向かって椅子が配置されている待合室からは、四季折々の繊細な日本の美しさを感じていただけます



滝から流れる水は池やせせらぎの風景となり、くつろぎや安らぎを訪れる人や鳥たちに与えてくれています



医療法人

信州口腔外科インプラントセンター

【診療時間】月～金 8:30～12:00 / 15:00～18:00 土 8:30～12:00

※水曜日は手術日

【休診日】日・祝 【診療科目】歯科口腔外科

〒381-0201 長野県上高井郡小布施町林 2249-1

TEL.026-242-6888 FAX.026-242-6188

<http://homepage3.nifty.com/sinshu-osic/> 是非検索ください

